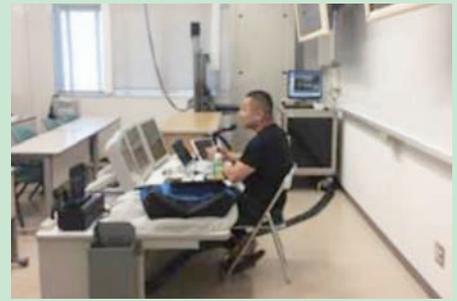


教育学部の将来構想

— 共同教育学部とは —



双方向遠隔システムを用いた授業のイメージ

少子化の時代を迎え、10年後には教員需要が現在の約半分になることが予想されています。その場合、教育学部の学生定員を減らす必要がでてきます。学生数が減れば、それに伴って教員数も削減しなければなりません。また、大学の運営を支える運営費交付金は毎年1%ずつ減少しており、それも教員の削減につながっていきます。大学の教員が減ると、中学・高校のすべての教科の免許を取得させることができなくなり、教育学部の弱体化が懸念されています。

このような時代に教育学部の機能を存続させると同時に、さらに高度な教員養成を実現するためには、大胆な改革が必要です。その一つの家が2つの大学の教育学部が連携して共同教育学部を設置するというものです。共同学部では、卒業に必要な単位の約半分の授業を互いの大学が提供しあうこととなります（共同授業）。これにより、将来の大学教員不足に備えることができるだけでなく、両大学の特徴を生かした質の高い教員養成を実現することができます。

共同授業では両大学の学生が同じ授業を同時に受講します。学生が2大学間を行き来することは不可能なので、共同授業は情報ネットワークを用いた双方向遠隔システムを使って受講することになります。

(イメージ写真参照)

※2ページ「学部長のご挨拶」をお読みください。

宇都宮大学教育学部学部長 伊東 明彦

目次

同窓会会長と教育学部長からのメッセージ … 2	学生生活を振り返って …… 7
同窓会から学生への支援 …… 3	今に生きる …… 8・9
心に残る先生や先輩 …… 4	定期総会概況報告 …… 10・11
懐かしい学生の頃 …… 5	同窓会について・同窓会事務局から …… 12
現場からの声 …… 6	編集後記 …… 12

同窓会会長と教育学部長からのメッセージ



退任にあたって

宇都宮大学教育学部同窓会前会長
松本展壽

前任の柴田毅会長の後を引き継いで、3年間経ちました。同窓会には、副会長3年間、合計6年間お世話になりました。会長としての3年間は、事務局をはじめ、役員の皆様、会員の皆様方のご協力とご支援のおかげで何とか役目をはたすことができたのかなと思っております。後任は、増渕茂泰副会長になります。博学多才の方でありますので、同窓会に新しい風を吹きこんでくださることと思います。

最後になりますが、今までのご協力に感謝申し上げますとともに、同窓会のますますの発展をお祈り申し上げます。



ご挨拶

宇都宮大学教育学部同窓会会長
増渕茂泰

私は、30年度の総会においてご承認をいただき、会長職をお引き受けすることとなりました。学生時代の所作を思い出すと大変心苦しいことでもあります。幸いにして大学に近いことだけが取柄ですが先輩に倣いまして、職責を果たしてまいりたいと存じます。これまで副会長として、支部総会、懇親会に参加させていただき、その活発な活動を目の当たりにして、支部活動あつての県本部であるなと感じておりました。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

ところで在学生の就職支援のことですが、教職員を目指した学生の全員が夢をかなえられるよう応援したいと思います。学校は子どもたちの将来と命を育む場

所ですが、学生たちはその重荷に耐えられる力を十分に持ち合わせていると思います。教育学部に入学しようと心を動かした時点で天性がそうさせたと考えるからです。

また、先頃の出来事から、大阪の地震で学生たちのボランティアが大活躍しました。誰もが動転する中、機転を利かしたスマホの充電サービスです。教育学部の学生もボランティア活動を実施しておりますが、これからの若者たちが活動しやすい環境を整えられる同窓会を目指したいと考えます。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。



ご挨拶

宇都宮大学教育学部学部長
伊東明彦

教育学部長の伊東です。同窓会の皆様には日ごろから大変お世話になっております。おかげさまで、平成30年度の教員採用では、教員養成課程の卒業生全体の教員就職率はやや低めでしたが、採用試験を受験した学生の合格率は59%という過去最高を記録することができました。

さて、表紙に書かれていますように、現在宇都宮大学教育学部では、共同教育学部設置構想を群馬大学との間で検討しています。将来にわたって、本教育学部が責任をもって栃木県の小中学校の教員養成を担っていくためには、避けて通れない改革だと考えています。

しかし、この構想はまだ検討を始めたばかりであり、現段階でも解決すべき様々な難問を抱えています。今後、さらに慎重な議論と周到な準備を行い、学外の皆様のご意見なども伺いながら、慎重に進めていく所存であります。同窓会の皆様にもご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



きんぎょつめつめ / 美術分野 大田原 美香

同窓会から学生への支援

教育学部の学生の就職に役立てるよう、
同窓会員が支援



教育は「共育」

就職セミナー指導員 綱川 芳孝

教育は文字通り、教え育てることですが、「共育」は教えることによって自分自身も共に成長するということです。教育の基本は、当然のことですが、人（教師）が人（児童・生徒）に人間性や知識・技能などを教えることです。

最近、「ICT」という言葉をよく耳にしますが、主役は人間である教師に変わりないのです。忘れてならないことは、情報教育機器はあくまでも手段の一つだということです。人が人を教え導くことに変わりはないのです。

教師を目指す皆さんには、「人と人との心が通い合う教育が最も大切なことだ。」ということを常に心に留め、児童・生徒からいつまでも慕われる先生になってほしいと思います。そして、自分自身も一段と大きく成長して行ってください。

の先生方には願書の添削、論作文の添削、面接対策などさまざまなことを教わりました。また、支援室に行くと他の学生も利用していて共に情報共有したり、そこで集まった仲間と集団討論の練習をしたりしました。学生だけの練習では何がよいのかわからないため、支援室の先生に具体的で的確なご指導をいただけて貴重な時間でした。また、他の学生と交流できるよい場であり、支援室に行くことで自分のモチベーションも維持できました。先生方は本当に優しく親身になって話を聞いてくださるため、勉強がはかどらないときに行くこともありました。支援室は本当に居心地がよく教員を目指す人を支えてくれる場所です。



ファインダー越しの景色 / 美術分野 大島 歩実



若い力を!!

就職支援室指導員 大沢 智恵子

「こんにちは。」支援室のドアを開ける学生の笑顔。就職支援室での活動の始まりです。この部屋には、教員になるための道しるべがたくさんあります。教員採用試験の過去問題集、参考書、教育雑誌等や先輩の学生が後輩のために残してくれた情報ファイルなどです。

集団面接練習で見せる学生の子どもたちや教職への情熱あふれる思いやこれまでの学びを生かした受け答えに若い力がみなぎっています。その力が現場の子どもたちに届くよう、支援室では渡邊昌子先生と共に応援しています。

今年も、フレッシュな若い先生方が宇都宮大学から大勢巣立つことを楽しみに、討論や面接の練習、相談等に力を入れていきます。



夢を叶えてくれる支援室

教育学部 学校教育専攻卒

渡邊 裕弓

現在、私は、小学校で勤務しています。日々、子どもたちから元気をもらい、教員としてのやりがいと充実感を感じています。こんな毎日を送ることができるのも、支援室の先生方のご指導のおかげだと思います。

支援室は、面接練習・実技練習など、多くの試験対策を行っていただきました。先生方からは、具体的な助言を頂きました。特に、私は小論文を書くことが苦手だったので、毎週、小論文を添削して頂きました。先生方の熱心なご指導のおかげで、自信をもって試験に挑むことができました。また、試験対策で共に高めあった仲間との出会いは、私にとって、今でも大きな財産となっています。

もし、試験に挑む上で不安なことあるなら、支援室の先生方を頼ってみてください。どんな悩みでも解決して下さり、自信をもって試験に挑めるはずですよ。



支えてくれる支援室

教育学部 数学教育専攻卒

大久保 直人

小学校の頃から教師になることが夢でした。しかしどのようにすれば教員になれるのかなど、全くわからなかったため支援室を訪れました。支援室

心に残る先生や先輩



先輩から学んだこと

今市支部 宇賀神 由美子

私の大学生生活は、3年生までサークル一色でした。新入生勧誘で、友達とふらっと入った、旧講堂2階のワングル部室。煙草や汗の入り交じった大人の臭いと無造作に置かれた山道具。そこで初めて目にした、色とりどりの高山植物や山の風景写真に吸い込まれるように見入ってしまいました。山の魅力を熱く語る先輩に心奪われ入部。(コンパや歩荷トレーニングの厳しさなど露程も知らず) 1年生にとって3・4年の先輩方は正に神。部室で明け方まで、リーダーを中心にチームとして動く意義や山での遭難を想定した危機管理の大切さなどを語り合いました。今、教員として働く私にとって大切な基礎を先輩方から学んだといっても過言ではありません。ワングルの同窓会は、50年の時を刻み、今も継承されています。懐かしい先輩方に、またいつか会える日を楽しみにしています。



木と学び舎 / 美術分野 増淵 のり佳



心に残る先生

藤原支部 柴田 友美

学生時代を思い起こすと、楽器の演奏についてお世話になった鈴木尚雄先生のことを思い浮かびます。指揮法や連弾の授業では緊張感もありましたが、温かい御指導をいただきました。先生は穏やかで、多くを語らず、具体的に直すべきところを教えてくださいました。その頃の私は、皆について行くのに必死で、劣等感をもつこともありました。学生の私の話にも興味をもってくださったり、楽器の演奏等で褒めてくださったりしたことが、嬉しく励みにもなりました。4年間努力できたのは、成長の遅い私のことでも、先生が認めて褒めてくださったからだ

と思い、感謝しています。

現在、私は学習支援の仕事をさせていただいています。先生のように、一人一人を認めて、褒めて、それぞれの成長に沿った温かい支援をしていきたいと心がけています。

関谷先生の思い出

栃木支部 中山 観

私は、乙類社会科に在籍しました。甲類・乙類は、今はないようです。社会科に籍を置いた私ですが、「小林秀雄・演習」というのがとても魅力的で、3年生のとき国語科の関谷研究室の扉を叩きました。「卒業単位とは関係ありませんが、是非授業を受けさせて下さい。」関谷先生は快く願いを聞いてくださいました。

小林秀雄・演習を受講していたのは、優秀な生粋の国語科TとM、そして私の3人だけだったと記憶しています。授業は正に期待通りのもの。「様々なる意匠」から始まり、小林の評論を時代の状況から解説しつつ、評論をする立ち位置等の考察を通して、人間精神の在り様について理解を深められるよう、関谷先生が我々のつたない議論を、丁寧に意味づけしてくださいました。「精神が澁刺としてくる」この授業を受けていつも感じていたのが、この言葉であります。

心に残る宇大の先生

河内北支部 渡邊 範子

数学科の木村寛先生の講義をたくさん受けたが、どれも難しい講義でノートをとるのがやっとだった。その木村先生と内留で再会し、半年間先生のもとで学ぶ機会を得ることができた。そこで先生から「コンテキスト」(文脈、流れ)という話を聞き、興味を持った。生徒は問題を考えるときどう流れを組み立てるのだろうか。友達の見解を聞いて心の中でどう反応し、どう考えに組み入れるのだろうか。そんなことに注目しながら授業を見学したり、自分の授業のビデオを見て分析をしたりと、研究をさせていただいた。あれから20年近くたった今も、気が付くと、「コンテキスト」を想像しながら授業の組み立てを考えている。先生が話されていた「コンテキスト」とは、まさに「主体的で対話的な深い学び」の「流れ」であったことに今になって気づく。先生の深い教えに心から感謝しています。

懐かしい学生の頃

大学を卒業した皆様の当時の思い出



社会学研究室の思い出

日光支部 渡辺 弥生

勉強熱心な学生ではありませんでしたが、社会学研究室での夏の現地調査が一番の思い出です。馬頭・西那須野・小来川が調査地でした。地域の公民館に一週間ほど泊まり込み、質問事項をまとめた冊子を持ち、一軒ずつ長時間の聞き取り調査を行います。今考えると迷惑千万な話ですが、どのお宅も丁寧に学生につきあってくださいました。もぎたてのトウモロコシをいただいたり、時には「蜂の子」を、勧められ意を決して丸呑みにしたり、「よかったらお風呂においで」とのありがたいお言葉に甘え、数人でお邪魔して風呂上がりのスイカまでいただいたりしたことは忘れられません。

初対面の方と話をする緊張、人と関わり聞いて見て知る楽しさ、雑談の中にあるキラリ！ など、糧となる貴重な経験でした。くじけそうな私を励ましてくれた研究室の仲間と柿崎先生に、今さらですが大感謝です。



実験好きの「実証主義の理論家」へ

宇都宮支部 間宮 栄二

46年度入学、49年度卒業。理数好き、理論家。2年時に太田先生の核物理で量子力学の活用の面白さを知った。3年生までに殆どの必修単位を履修。残りは、4年時必修の卒業特別実験と専攻外の中高数学免許の単位。この卒業特別実験は、純粋な理論家から実験好きの実証主義の理論家に私を脱皮させた。金子研究室で鈴木勲先生の指導の下、プロパンの脱水素反応を探究した。同期の恩田氏は、逆反応のプロピレンの水素添加反応を探究。二人は協同して、毎日、反応の初圧変化測定を繰り返した。水銀マンオメーター、液体窒素、ガスバーナーが懐かしい。大学祭中でも、ガラス細工で装置の製作や補修をしていたことを思い出す。可能性ある103通りの素反応から、実際に起きている真の素反応を、実験事実から突き止めたのである。実験から、実践の大切さや実証の面白さを実感した。



卓球に明け暮れた日々

壬生支部 石崎 典子

「ほら、これで卓球のラケットを買いな。」と友達が東武駅の待合室で、ここに

居るみんなが出してくれたのだとってお金の包みを渡してくれた。『但し国体に行く』という条件付きだという。国体、高校3年間、泥まみれになってバレーをがんばったのに、一度も行けなかったあの国体。来年の県予選までわずか1年。無理と知りつつ私はラケットを買いに走っていた。

それからの練習はすごかった。放課後は当然、休講の時も、昼休みも、時間さえあればラケットを振った。見かねたのか、部員はもちろん、農学部先生、事務長さん、そして、あの黒崎先生まで相手して下さいました。ストレート、カット等々。鋭く重い球が返ってくる。返しても、返しても、返ってくる。でもお陰で第10回国体への出場権を手にすることができた。球友と全日本にも出場できた。楽しい張りのある学生生活だった。



大学で学んだこと

石橋支部 倉澤 健一

楽しかった大学を卒業して14年が経とうとしています。入学して1番最初にうけた先輩からの指導は、先輩にお酒をつぐ際はラベルを上にして両手で注ぐ。基本姿勢は正座。高校を卒業したばかりの当時の自分にはありえないと思うような面倒なルールがたくさんありました。しかし、今になって考えてみると、会合の中で目上の方達とうまくコミュニケーションをとるといふ教科書では教えてくれないことを学ぶことができました。授業では、難しくてさっぱりわからないこともありましたが、しかし、友人の家で一緒に復習するなどして何とか乗り越えました。また、体育科の仲間と過ごした日々、一緒にそば屋に泊まったこと、卒業旅行でグアムに行ったこと。その全てが今の自分をつくりあげてくれました。みんな元気にしてるかな。大学生活が人と仲良く過ごすことを教えてくれました。



フランス式庭園模型 / 美術分野 吉崎 奈園

現場からの声

教職に就いている人、
教職以外で活躍している人の
メッセージ



少子化の中で

南那須支部 鈴木 弘

南那須支部内でも、県内各地と同様、いやそれ以上の勢いで少子化が進んでいる。私自身も、3年前に中学校で統合を経験し、そして、今年、3月に勤務する小学校が閉校し、児童とともに統合後の小学校に異動してきた。支部内の学校数は、小学校8校、中学校4校と、私が新採（35年前）の時の約1/3に減少した。

現勤務校も幾度かの統合を経て、どうにか300名を超す児童が在籍する。いつの時代でも、我々教職員は心身ともに健康な国民の育成のために教育を実践していくことが重要である。特に、少子化が進む現在では、一層、将来の社会の変化を推測しながら、大切な子どもたち一人一人の思いや願いが、将来叶うように教育に当たりたい。そして、「笑顔」があふれ、「学校が楽しみだ」と毎日毎日実感してもらえる学校をみんなで創っていききたいと思う、統合1年目の日々である。



今、想うこと

南河内支部 人見 佳代子

現在の勤務校に、今年度も新規採用教員が赴任してきました。思い起こしてみると、県の採用人数が減少した何年間かを除いて、ほぼ毎年、新規採用教員との出会いがありました。

希望にあふれ、熱意をもって職務に当たっている姿を見ると、自分が新採だった頃のことを思い出し、先輩の先生方の目に自分はどうか映っていたのだろう、と考えます。周りの先生方に様々なことを教えていただき、励まされ、助けていただいたおかげで今があるのだと改めて感じています。

年月を経て、後輩の先生方に自分が適切な指導や助言をしなければならぬ立場になりました。これからの栃木の教育を担っていく若手教員が、希望をもって歩んでいけるように、今の自分がやるべきことに取り組んでいきたいと思っています。



変化の中で

上三川支部 佐藤 秀彦

宇都宮大学を卒業して30年が過ぎた。自宅が大学の近くということもあり、自

然に大学の移り変わりを感じてきたように思う。自分たちが卒業して間もなく国際学部が設置され、教育学部においても再編がなされたというニュースを聞いた。法人化されたり、地域デザイン科学部が開設されたりもした。

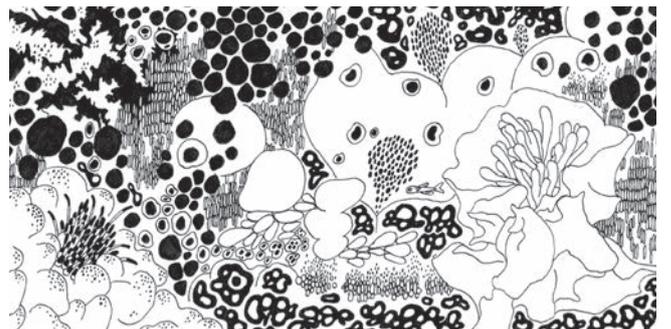
学校現場の眺めも、この30年で大きく変わった。多様化する様々な課題に必死で対応してきたわけだが、その中で、教員の業務改善が今大きな問題となっている。今後、教員の大量退職を迎え、若い先生方が大幅に増えてくる。校長になり改めて思うことは、「教育は人なり」ということである。現場は、子どものために頑張れる熱のある教員がほしい。時代のニーズに応じてきた宇都宮大学で、仲間と共に踏ん張れる人間性豊かな後輩が育ってくれることを願っている。



「働き方改革」をうけて

野木支部 室井 孝之

「働き方改革」という言葉を、最近よく聞くようになりました。労働環境を改善し、誰もが働きやすい社会にすることが目的なのだそうです。ノー残業デーやプレミアムフライデーのように、学校現場は蚊帳の外なのだろうと、どこか他人事のように聞いていたのですが…いよいよ我が校でも出勤・退勤の勤務時間調査が始まりました。思い返してみると、ここ10年で学校にパソコンを初めとしたICT機器が普及し、校務処理が随分楽になった実感があります。しかしその一方では、これまでなかった新たな仕事が増え、まさしくたちごっこのような、そんな気がします。昨今の「働き方改革」の大きな流れを、自分の働き方を見直すよい機会ととらえ、仕事（日々の教育活動）の時間をしっかり確保するため、作業（雑務）の効率化を図れるよう励みたいと思っています。



イワシになる一回転の時の赤い場所の絵
/ 美術分野 水越 葉子

大学生生活を振り返って

大学を卒業した人と
学生が日頃感じていること



夢

大学院 教職大学院 高橋 真実

「先生になりたい。」中学時代からの夢を叶えるべく宇大に入学したのは、今から5年前のことだ。4年間の学びを通して、自分の見方が「教わる側」から「教える側」へと変わっていった。子どもが好きというだけでは教師として務まらないことも知った。それでもなお夢をもち続けたのは、教育実習や学校ボランティアで出会った子どもたちの影響による。どんな子ども、本当はもっとよくなりたい、できるようになりたいと願っている。そんな彼らと喜びや苦しみをともにし、自らも成長できる職にやりがいを感じた。

来春は大学院を修了し、小学校教員として勤務する予定だ。約10年間思い続けてきた夢が、間もなく実現しようとしている。これからの夢は何だろう。刻々と流れてゆく時間の中で、自分のやりたいこと、なりたて姿を心に描き、明日を生きていきたい。

れた4年間であった。友人とは勉強でわからないことを互いに教え合い、教育実習では共同生活をして励まし合った。そして、先生方には日々の生活を始め、卒業論文では貴重なお時間を割いていただいた。特にU先生に大変お世話になった。

卒業後、私は教員にならずに会社員となった。しかし、学生時代を振り返った結果、やはり教員になりたいと思った。U先生の研究室にお邪魔した。そこで今後について相談したところ「修士課程への進学」というご提案をいただいた。また、入学試験を受ける際、ご指導いただいた。U先生のご指導により、無事宇都宮大学に戻ることができた。今ではもう一つの地元のように思えるこの地で、教員を目指してお世話になった方々へと恩返しをしたい。



常に生産性のある日々を

教育学部 英語教育専攻

湯田 匠

私は、耳にミズダコができました。それは、大学に入学して、大人の方々から無限に浴びせられる「いい経験になるから」という洗脳にも近い言葉が原因でした。私が考えるいい経験とは、周囲に笑って話せることであると、捉えています。振り返ってみると、あるアルバイト先での自分の名前が「お前」であったこと、周囲になじめず大学生にもなって寝たフリをしていたこともいい経験だと感じています。ネガティブなことをいかにポジティブにするかに尽力し、今日も幸せだったと感ずることができた3年間でした。そんな私にもまだ残り1年あります。授業や実習を含む、教職に関わる学びを深めながら、教員になるために今できる経験を積み重ねていきます。また、1人の人間としても魅力的でいられるように口角を上げていきたいです。

学びから実践へ

大学院 修士課程 家庭科教育領域

松田 悠希



4年間の大学生活の中で、私が最も重視し実感したことは「人とのつながり」の大切さだった。私は教育学部の家政科で先生になるための勉強をしてきた。その中で、現代の子どもたちが抱える問題や学校が抱える問題、自分がこれまでの人生で感じてきた社会の問題が合致したような感覚があった。それが「人とのつながり」である。このことに気づいてからは、教員になる事だけではなく、日本に住む子どもたちを支えるには、学校や地域では何が出来るのかと考えるようになった。先生方の支えもあり、学生が挑戦する、地域の交流拠点となるような食堂「あいあい食堂」の実践をすることが出来た。

しかし、前述の問題を解決するにはまだまだ課題が多い。今後、大学院やその先の人生においても、大学で学んだことを活かし、考え、実行していきたい。



再び宇都宮大学へ

大学院 修士課程 教育学領域

望月 稜子

私の大学時代は、先生方と友人に恵ま



宇〜太 / 美術分野 高橋 里菜



宮沢賢治の足跡を訪ねる旅

塩谷支部 高瀬 崇夫
昭和42年度卒

「よだかの星」これは私が初めて出会った賢治の童話だ。それ以来賢治のとりこになり作品を読んできた。

平成14年には、花巻小の「賢治集会」と出会った。毎年開催され、1・6年、2・5年、3・4年の3つの兄弟学級による賢治の童話劇、歌、雨ニモマケズの全校朗読が披露される。子どもたちに賢治の精神が受け継がれていくことがすばらしい。以後ずっと参加している。その折りには、賢治の足跡をたどる旅を計画してきた。

昨年7月には「グスコブドリの大学校」という2泊3日の講座に参加した。賢治に関する幾つかの講座、小岩井農場見学、岩手大学農業教育資料館見学、種山高原での夜の交流会、人首文庫、詩碑見学等とても中身の濃い内容だった。8月には、栃木の賢治の会（ギンドロの会）に入会し、月1回の例会に参加。そこでは賢治の作品を読んだり、情報交換を行っている。那須町で実施した交流会では、賢治の主治医で那須町出身の佐藤隆房博士に視点を当てて学習した。

いろんな所で参加するたびに、新しい情報が得られうれしい限りである。これからも賢治の未知の世界をわくわくしながらたどっていきたい。



ささやかな幸せ

小山支部 癸生川 清
昭和47年度卒

5月末に孫娘の小学校へ運動会を見に行った。4月に入学し2か月足らず。3月生まれの子はいか体はまだ小さいが、並ぶと列の前の方にいるのですぐ分かる。こちらの姿に気がつくとき小さく手を振った。入場行進、開会式、応援合戦、50m走、玉入れ、地元の踊り、ダンス。これだけのことを入学間もない1年生がやってのけるということに心が動かされた。レンズを通して見る表情は楽しそうに見えた。家では親をてこずらせることもあるが、学校では努力していることがしのばれた。そして先生方の地道な営みに思いを馳せた。孫娘がこれからどのような人生を歩んでいくのか分からないが、学校の先生方はじめ多くの人の手を煩わせることだろう。これからも静かに見守っ

ていこうと思う。

もう1つの楽しみは卓球だ。1年程前、中学以来の友人に誘われ高齢者のクラブに入れてもらったが、用具が高価なのには驚いた。硬式ではなくラージボールであるが、今の自分には丁度良い。中学時代から卓球には親しんできたのでラージボールにも直に慣れた。50年ぶりに級友らと打ち合うラリーは楽しい。クラブにも知り合いが増えた。週に1度の楽しいひと時だ。



今日もウォーキング

宇都宮支部 大越 浩子
昭和41年度卒

今日は奥入瀬溪流ウォークだ。参加者は全員元気だ。昨夜は温泉につかりぐっすり眠れたのだろう。溪流の水音に励まされ、草木の緑にいやされて足取りは軽い。ほぼ予定通り子の口にゴール。汗ばんで息は弾んでいるが気分は上々、充実感に満たされる。

学生時代はスポーツに縁がなかった私。退職後に出会ったウォーキングが、今も続いている。一人で歩いていたら長くは続かなかっただろう。励まされ、助けられ、おにぎりを分けあい、感動を語りあう仲間がいる。仲間と歩くウォーキングの楽しさだ。それに、歩くことは健康の基。いつでも、どこでも、だれでもできる。身体一つでできるスポーツだ。こうして元気でいられるのは、ウォーキングに出会えたからだ。

所属するウォーキング会は、会員数が減少。会員は高齢化し、新しい入会者はない。現在、対策検討中だ。

一人で歩くのもいいが、仲間と歩くのはもっといい。知っているはずの町を歩けば、興味津々。また発見がある。

さあ、今日はコース下見だ。歩けることに感謝しながら歩いてこよう。



生きる

退職し、第二の人生を
歩んでいる人のエッセイ



真の文明を求めて

佐野支部 篠崎 健一
昭和52年度卒

昭和49年度入学、52年度卒業なので、入学式も卒業式も無い学生時代だった。無力感を入口と出口で味わい「宇大なんて、こんなところか…」と冷めていた頃を思い出す。しかし、貴重な経験のできた4年間だった。特に、4年次後期に受講した古文学(2)では、秋本教官から「これからは地方史編纂事業が盛んになるので、古文書を解読できるように」と言われ、卒業を1年遅らせようかと迷ったほど古文書の虜になった。

その思いを振り切り、何とか卒業し、教職にも慣れた頃、『田沼町史』編纂の手伝いをするようになった。生の文書の厳しさに打ちのめされながら、飯田先生や高崎先生にご指導いただき、何とか資料編・通史編の発刊の一部にかかわることができた。その間、昭和59～60年の2年間、上越教育大学大学院社会系コースで学び、『田沼町史』の史料も活用し、修論をまとめることができた。

今は、職業人時代にできなかった古文書解読、合唱、ゴルフ、スキー、チェロなどにも手を伸ばし、有意義な自分の時間を過ごしている。今後も、田中正造翁の「真の文明は…」の精神を心に留め、今できることをやり続ける「柔らかく真に生きる」人間でありたいと思う。



17年という歲月

西方支部 鈴木 久雄
昭和59年度卒

理科専攻だった私は、『地学』に進みました。当時から各研究室にパソコンが置かれている環境で、かなり高額なものでしたが、自然とキーボードに手が伸びました。マウス1つが1万円くらいした時代でした。当時は教育現場に出てから役立つように、小学校版・中学校版の成績処理やS-P表のプログラムを「BASIC」言語で組んでいました。分からない点は、現学部長の伊東明彦先生にたくさん教えていただきました。教育現場に出ると、勤務する学校全てで、(後半は「進路指導・キャリア教育」に軸足が移ってききましたが)情報教育担当となりました。教職17年目には、旧日本教育工学振興会(JAPET)より「コンピュー

タ教育実践アイディア賞優秀賞」を全日本教育工学研究協議会全国大会(JAET富山大会)で表彰され、富山大学で発表の機会も与えていただきました。この大会で、次年度JAET栃木大会の開催責任者であった現同窓会長の増渕茂泰先生にお会いしました。あの富山大会から17年の時が流れ、今年度から西方支部長として伊東明彦先生、増渕茂泰先生と同窓会組織の役員になることができ、本当に光栄で、不思議なことだなと感じています。



健康で長生きを！ (健康寿命を伸ばそう！)

那須北支部 諏訪 尚子
昭和41年度卒

私は昭和41年度の卒業生です。卒業して51年、結婚して49年、来年は金婚式を迎えます。3人の娘に恵まれ、それぞれ家庭を築いています。私と夫と二人、互いに無くては生きられない「空気」のような存在で日々過ごしています。

教育一筋に生きて、定年退職後はボランティア活動を主に活動しています。他方、趣味の世界では退職と同時に混声合唱団に加入し、童謡や叙情歌、合唱曲など週1回の練習に励んでいます。毎年、合唱フェスティバルや郡芸術祭等に出場しています。

この頃は年々寿命が伸びて「人生90年」に手が届こうとしています。健康寿命が提唱されて久しいですが厚労省が発表した最新の調査結果では、男性72歳、女性75歳。一方平均寿命は男性81歳、女性87歳で世界一位だそうです。従って人生の最後の約10年を不健康に終えている人が多いということです。健康寿命をいかに伸ばすか、我が家のキッチンには「長寿十訓、ボケないための十カ条、血管を強くする食品」等、様々貼ってあります。でも貼って安心、実践が伴わないことが課題ですが、健康で長生きしたいと思うこの頃です。



▲学芸学部図書館



高橋克麿様より
寄贈頂きました。

宇大記念祭 体育祭 (S24.11.3)▶

叙勲受章者への賀詞贈呈 おめでとうございます

◎秋の叙勲	大貫 宏衛 様	◎春の叙勲	角田 静雄 様		
◎高齢者叙勲	仁平 幸夫 様	繪面 昭男 様	磯野 隆夫 様	筑井 英男 様	宮下 士郎 様
櫻井 武八 様	螺良 郁郎 様	澤村 菊三郎 様	阿久津 登志男 様	亀田 光男 様	船田 效 様
岩上 四郎 様	加藤 明 様	小堀 良一 様	斎藤 喆 様	佐藤 英一郎 様	植木 不二夫 様
相馬 功一 様	菊地 理具 様	塩川 美好 様	高瀬 常雄 様	阿由葉 ミツコ 様	鈴木 暉夫 様
益子 剛一 様	星 米男 様	黒崎 興四郎 様	半田 俊雄 様 (平成30年逝去)		

退任者への感謝状贈呈 お世話になりました

松本 展壽 様 (会長)	飯野 ハツコ 様 (副会長)	高瀬 崇夫 様 (副会長・塩谷支部長)
坂本 三郎 様 (副会長)	宇賀神 玲子 様 (監事)	中嶋 陽子 様 (河内北支部長)
鈴木 克伸 様 (上三川支部長)	設楽 孝男 様 (南河内支部長)	川崎 眞里子 様 (西方支部長)
久保田 勝憲 様 (今市支部長)	君島 實 様 (日光支部長)	大出 悦子 様 (都賀支部長)
前原 純子 様 (石橋支部長)	塩沢 建樹 様 (国分寺支部長)	星野 美智夫 様 (大平支部長)
印出 雅昭 様 (野木支部長)	櫻井 誉 様 (藤岡支部長)	松島 俊夫 様 (岩舟支部長)
癸生川 清 様 (小山支部長)	五味 壽明 様 (栃木支部長)	白澤 嘉宏 様 (佐野支部長)
星 健彦 様 (南那須支部長)		

平成30年度 定期総会



叙勲受賞者への賀詞贈呈



退任者への感謝状贈呈



大学歌を合唱する会員



和やかな懇親会

講話「あこがれの大空」

講師 宇都宮大学教育学部同窓会長 増淵 茂泰

乳児期に米軍機P1ムスタング急降下の機銃を浴びたことから、エンジン音を追うようになり、以来これまで航空機に異常に興味を持つようになった。小学校からたくさん飛行機を設計、その中の大型模型飛行機アルプス号は大空に消えていってしまった。中学校では、定期テスト中に飛ばした模型飛行機が職員室の窓から入り、担任から大目玉！高校では近視傾向のために職業パイロットをあきらめ、不安定な学生生活を送った。

宇都宮大学ではグライダークラブに入部した。教官は小学校時代に模型飛行機で一緒に遊んでくれたお兄さんだった。体験飛行の時、言われたように操縦桿に軽く手を添えていたら、後席の教官が「君、上手だね。」と声を掛けてくれた。緊張していたので、操縦していたはずの教官の手が私の肩にあったの気づかなかった。教官は操縦せず、私一人で操縦していたのだった。「肩の力を抜いて、軽く操縦桿を握る」、操縦の基本を教えてくれた。教員になることを重荷に感じていた私が、肩の力を抜いて教員を目指すきっかけとなった。

50歳を目前にして、ハワイにて米国連邦航空局 (FAA) のグライダーライセンスを取得、これまでの練習生から卒業した。

グライダー操縦から学んだ、「ほめる、気づかせる」を教育信条に、教員生活のかたわら、細々と50数年にわたるグライダー人生、十数機種を遍歴し、その間、左手に操縦かん、右手のカメラで感動の景色を撮影してきた。これからもグライダー操縦を継続するための健康維持に努め、末永く大空を飛び続けたい。



支部長・評議員会 H30.5.12



新入生歓迎会 H30.4.10



伊東学部長 挨拶



会に参加した宇大の先生方



混声合唱団と一緒に大学歌の合唱



皆で会食

宇都宮大学教育学部同窓会について

宇都宮大学教育学部同窓会は、栃木師範・女子師範・青年師範・宇都宮大学教育学部（学芸学部）が、幾多の変遷を経ながら一体となって、昭和43年に「宇都宮大学教育学部同窓会」として誕生しました。平成30年度で142年という輝かしい歴史と伝統をもつ団体です。その間、同窓生は児童・生徒の教育に情熱を傾け、教育の中心的な存在として活躍してきました。また、教育以外の分野でも、各方面で、活躍されています。

同窓会では、ねらいを「会員相互の親睦と資質の向上を図り、母校の発展に寄与する」としています。

活動内容は下記の通りです。

母校である宇都宮大学への協力

- 宇都宮大学基金への協力
- 新入生歓迎会への協力
- 学生へ記念品の贈呈
- 就職対策セミナー（教員・公務員・企業等）への支援
- 就職支援室への協力
- 災害時における対応（見舞金）
- 施設の新設・改修への協力
 - ・学生のサークル活動施設の新設（コスモス）（17年度）
 - ・宇都宮大学まなびの森保育園の新設（18年度）
 - ・宇都宮大学旧講堂の改修（19～22年度）
 - ・教育学部音楽棟の改修（25～27年度）

同窓会員の親睦

- 総会（県・各支部）・懇親会の開催
- 役員会・理事会等の会議の開催

- 現職会員と終身会員との話し合い・交流
- 会報（年1回）の配布
- 会員の慶弔に関する事業

30年度同窓会役員名簿

【役員】

- 客員：石田 朋靖・伊東 明彦
- 顧問：岡田 忠・柴田 毅・松本 展壽
- 会長：増測 茂泰
- 副会長：橋本 和英・大栗 由紀・薄井 忠恵
小林 哲夫・竹井 誠・堀田 由美子
大越 浩子・黒川 悦夫・酒井 功夫
- 監事：徳永 幸子・高島 利佳子
- 事務局：阿久津 嘉子・高尾 亮子

【支部長】

宇都宮	増測 茂泰	河内北	渡邊 範子
上三川	佐藤 秀彦	南河内	人見 佳代子
西方	鈴木 久雄	今市	阿美 浩二
藤原	堀川 照子	日光	高田 雄康
芳賀	生井 孝雄	都賀	大栗 由紀
壬生	北見 修	石橋	倉澤 健一
国分寺	古沢 誠一	大平	山田 恒夫
野木	室井 孝之	藤岡	山本 広紀
岩舟	熊倉 正巳	小山	森下 尚
栃木	中山 勲	佐野	茂木 郁夫
足利	坂本 三郎	塩谷	渡邊 和洋
那須北	豊田 充	南那須	薄井 忠恵

**** 同窓会事務局から ****

- 平成31年度の県総会は、平成31年7月7日（日）午前10時から、ホテル丸治で開催の予定です。
- 宇都宮大学からのパンフレットが会報と同封されています。ご覧になってください。
- ホームカミングデーが平成31年11月23（土）に予定されています。
- 平成30年度に終身会員になられた方
 - 【宇都宮支部】 平山厚子・小池公子・小貫敬子・小林 武若色静枝・渡邊良勝・高橋喜弘・柏崎純一
 - 【芳賀支部】 上野達彦・上杉 睦・池上真弓・小倉淳子
秋葉幸子・小嶋淳子・河原悦子・西澤一夫
秋山和子・樋口清恵・小瀧一男・石川栄壽
 - 【壬生支部】 新井義弘
 - 【佐野支部】 荒川知子・津布久貞夫・本郷順一・白澤嘉宏
 - 【塩谷支部】 五味淵俊夫・小島かおり
 - 【那須北支部】 渡部吉晴・伊東 孝・深澤厚子・鈴木高志
相馬素子・川上弘之

編集後記

会報のトップページに「教育学部の将来構想ー共同教育学部とはー」ということで、イメージ写真と共に伊東教育学部長に執筆いただきました。近い将来の教育学部の様子が見えてきました。

9ページの下に掲載した写真2枚は、昨年度の会報編集後記に「お手元に写真があれば連絡ください」と呼びかけましたら、宇都宮大学芸学部の一学期の高橋克麿様が、丁寧な手紙と一緒に写真を送付してくださいました。当時カメラを持っている人は少なく、故人が撮ってくれたものだそうです。送ってくださったお気持ちが嬉しいです。

大変お忙しい中、原稿を執筆いただいた皆様、ありがとうございました。

【編集委員】

川村和生・小林純子・高尾亮子・阿久津嘉子